

講義室利用の集約化による照明・冷暖房にかかる電力の削減

目的

現在、教養教育院や各学部で分散している講義室の利用を、全学教育棟をはじめとする少数の講義棟に集約することで効率的な照明・冷暖房器具の運用を図る。

手法

取り組む規模に合わせ、以下の通り行うことを提案する。

1. 個人で取り組んでもらう場合

- ・自習等は図書館や前後に講義のある教室で行ってもらよう呼び掛ける。
- ・できるだけ人のいる部屋を使うよう呼び掛ける。

2. 学部で取り組む場合

- ・カリキュラムをもとに講義が連続しかつ使用する部屋の数が少なくなるように講義室の設定を行う。
- ・使用しない講義室の照明・冷暖房装置の電源は完全に切っておく。

3. 全学で取り組む場合

- ・現在各学部の講義棟で行われている講義を少数の講義棟に集約する。つまり、講義棟を複数学部で共用することで使用する講義棟の数を減らす。

その他

- ・言語系科目に設定されているアクセスポイント使用率は高くないと予想されるので、複数クラスをまとめて1つの教室に集めるという工夫を行う。

期待される効果

- ・使用する講義室を減らす分、照明・冷暖房にかかる電力が削減される。
- ・連続して講義室を利用することで温度維持の負担が減り、冷暖房の消費電力が減る。
- ・使わない講義室を明確にし照明・冷暖房の電源を完全に落とすことで待機電力を削減できる。
- ・使わない講義室を明確にすることで、使用する講義室に注力して管理でき、電力消費効率の良い照明への交換や冷暖房器具の手入れの負担が減る。
- ・省エネとは関係ないが、他学部の講義を同じ講義棟で行うことで他学部の講義を聴講しやすくなり、多角的な視点を持った学生の育成に役立つだろう。